



交流の輪ひろげよう

Ring

Ring

りんぐりんぐ

第63号
VOL.63

八戸国際交流協会
Hachinohe International Relations Association

2019年2月発行
Published February 2019

フィリピンのバンブーダンスに挑戦！



平成30年9月9日(日)

第8回 国際交流フェスタinはちのへを開催しました。

メイン会場には、外国人とのおしゃべりコーナー(中国、韓国、フィリピン、英語、日本語を学ぶ外国人)と抹茶・中国茶体験ブースを設置。市内大学・高校による国際交流活動のパネル展示や様々なステージパフォーマンスも行われました。

イベントの最後を飾ったのは、フィリピンブースの皆さんによるバンブーダンス。飛び入り参加もあり、会場が一体となって盛り上がりました。

⇒参加者インタビューは、2～3ページをご覧ください。

交流するともっと
わかる世界のこと。



P2～3 … フェスタ参加者へのインタビュー

P4 …… 異文化理解イベント

P5 …… JICA 隊員からの現地レポート

P6～7 … 日本とタイの伝統舞踊交流

P8～9 …… 世界で活躍する八戸ゆかりの人

P10～11 … 新国際交流員&ALT の紹介

P12 …… HIRA からのお知らせ&編集後記

会員数

個人

163

団体

59

(平成31年2月現在)



国際交流フェスタ参加者にインタビュー！

～地域住民との交流について～



第8回国際交流フェスタで、フィリピンブースにスタッフとして参加して下さった八戸在住のフィリピン人Joy Palさんに、イベントに参加した感想と、地域住民との交流に関する想いを聞きました。



国際交流フェスタにて(左がJOYさん)

私は、平成30年9月に開催された第8回国際交流フェスタに、フィリピンブースのお手伝いとして参加しました。外国人の参加者は、各国の誇りや文化を紹介しました。これは私にとって初めての体験でしたが、フィリピンブース自体も今年が初めての参加だったそうで、とても嬉しかったです。このイベントに参加したことで、八戸に住む外国人や八戸市民と繋がりを持つことができ、貴重な機会となりました。

私は平成30年4月に仕事のため八戸に来ました。海外に行くことが初めてだったのでとても楽しみにしていましたが、文化の違いの中でも特に言語が心配でした。私は八戸にいる間に、日本人の友達を作って楽しい生活をした

と考えていましたが、それは簡単なことではないと気付きました。私が会話をしたいと思っても、中にはそれを嫌がったり、避けたりする人もいました。彼らは私のことが嫌いなのではなく、おそらく英語が話せなかったり、私が本当に伝えたいことが理解できなかったりするからだと思います。

私はほんの少しの日本語の知識しかないまま、八戸に来てしまいました。それが私にとって1番のハードルとなりました。どこへ行っても、チャンスがあれば会話をしようと試みますが、結局は『こんにちは』と『またね』だけと言って、ニコッと笑って終わってしまいます。日本語の知識がないと、これほど苦労すると分かっていたら、日本に来る前にもっと本気で日本語を勉強していたと思います。しかし困ったことだけではありません。英語を全く分からない人でも、会話をしようとしてくれる人もいます。日本語をゆっくり話したり、簡単な単語とジェスチャーを使って、なんとか会話を続けようとしてくれます。この出来事



大人気のフィリピンブース

はとても嬉しく、私を温かく受け入れてくれているのだと感じます。

冒頭で話した国際交流フェスタは、八戸に住む外国人と日本人が文化や言葉の違いを超えて、友好的な関係を築くための架け橋になっていると思います。

今は徐々に日本語や文化について学んでいるので、日本人との会話がうまくいくことが少し増えました。私は新しい友人を作ることが好きなので、街で私を見かけたら是非声をかけてくださいね。



フィリピンブーススタッフの皆さん(中央がJOYさん)



中国ブースでは、北日本造船株式会社で働いている中国人の方々にご協力いただきました。中国の文化紹介として、縁起の良い中国結びの作り方や中国式紙飛行機の折り方などを指導してもらいました。彼らの勤務先の監理団体である北造協同組合事務局長の高橋信行さんと、皆さんのまとめ役で通訳の劉帥和 (Liu Shuai he) さんにお話を伺いました。

劉さん：フェスタは色々な国の人と交流ができてとても楽しかったです。中国ブースで何を紹介するか話し合い、中国の縁起の良い結び方 (中国結び) と、中国式紙飛行機の折り方、清朝時代の服装などを準備することにしました。中国結びは若い人はできないので、中国に帰った時にお母さんに教えてもらいました。

高橋事務局長：八戸の北日本造船の中国人は170名、ベトナム人が10名程です。彼らは全員会社の寮に住んでいます。3年間八戸で実習生として働き、その後帰国して、再度八戸に戻ってくる人もいます。その人たちはすでに必要な技能を持っているので、現場では即戦力になります。

中国人のまとめ役である劉さんも、3年間八戸で実習生として働いて

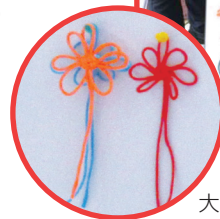
いました。その間、八戸にある「みちのく国際日本語教育センター」で日本語

を勉強し、不自由なく使えるようになって帰国しました。今回は、中国の会社の八戸駐在事務所の社員として戻ってきました。

地域住民との関係では、やはり生活面の習慣の違いが問題になります。例えばゴミの分別収集の方法や、夏場に部屋の扉を開けばなしにしたまま、ワイワイ盛り上がるなどがあります。受け入れ先の責任として、彼らの生活面でのチェックを行い、問題があれば教育をして、地域のみなさまに受け入れられるようにしていきます。



紙飛行機を作りながらのおしゃべりタイム



大人気だった中国結び体験

PICK UP! 江陽地区の国際交流

中国の春節に合わせて、江陽地区に住む中国人及びベトナム人と地域住民との交流会がありました。

この会には受け入れ企業も招待されていましたが、公民館や児童館および交番からの参加者もあり、企業と地域との連携を強める場にもなっていました。

交流会は、江刺家江陽町内連合会長の「外国人との共生のための取り組み」に



地域住民とのゲーム大会

そうしている動画を撮影してネットにアップすると、母国にいる家族に見てもらえて皆が安心します」と話していました。

外国人が地域住民と交流し、お互いに知り合うことは、安心・安全な地域をつくるだけでなく、遠く離れている家族にも安心を届けることにもつながっているのですね。



江陽地区春節国際交流会の様子

関するスピーチからスタート。八戸市のゴミの分別収集方法に関するレクチャーや、中国人およびベトナム人住民代表からの挨拶があり、その後、ゲーム大会や懇親会で盛り上がりしました。

懇親会后、外国人実習生から八戸での生活について感想が発表されました。この中で、ある1人は「地域交流として運動会に参加したり、このような交流会で楽し



懇親会で同じ釜の飯を食う仲に



異文化理解イベント

マレーシア文化をおいしく学ぶ



平成30年12月16日(日)根城公民館で、異文化理解イベント「マレーシア文化をおいしく学ぶ」を開催しました。当日は、八戸高専のマレーシア人留学生4名を講師に迎え、ハラールフードを使ったマレーシア料理教室と、国やイスラム教の文化紹介をしてもらいました。



左からアキラさん、ズライカさん、ディヤナさん、ラディアさん(愛称)



マレーシア料理教室

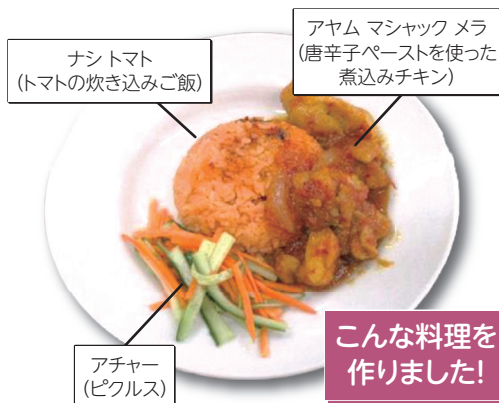
まずは、ハラールフードの紹介がありました。ハラールフードとは、イスラムの教えで食べてよいとされている食べ物のことをいいます。今回は、ハラールの鶏肉などを使って、マレーシアの家庭でよく食べられている3品を作りました。唐辛子をふんだんに使うメニューもあり、途中で、咳き込んでしまう人も…。参加者と講師が一緒にグループになって調理していたこともあり、とても賑やかな雰囲気でした。



ハラールフードの紹介中。認証マークが目印。



ナシトマトは、味付けした生米を炒めてから炊飯します。



こんな料理を作りました!



お食事タイム

食事の前に、まず食べ物への感謝の祈りをささげます。それから、マレーシア文化にならい、参加者全員が手を使って食べてみました。右手の親指・人差し指・中指の3本を使って、肉と野菜と米を一度に少しずつ掴み、親指で押し出すように口に入れます。マレーシアのお米はパラパラしているので、掴む時に汁気のあるものと混ぜてくっつけるのがポイントだそうです。これがなかなか難しく、料理を口に運ぶ途中でこぼれてしまったりします。慣れない食べ方に苦戦しましたが、3品ともおいしくいただきました。



「むずかしい〜!」



マレーシア・イスラム文化紹介



最後は、講師のみなさんからお国の文化やイスラムについての紹介をしていただきました。マレーシアは多民族国家で、人種によって言語・服装・行事がまったく違うことや、イスラム教での決まりごとなど、普段ネット上では調べることでできないお話も聞くことができました。日本との違いに驚くことばかりでしたが、マレーシアという国がちょっとでも身近に感じられるようになった気がします。講師のみなさん、ありがとうございました!

来年はどんな異文化に触れることができるのか、楽しみに!

JICA 青年海外協力隊員の 現地レポート

ジャマイカにおいて体育指導で活躍されている

JICA青年海外協力隊(平成30年度第1次隊)の金濱 亨さんをご紹介します。

かね はま あきら
金濱 亨さん



「ジャマイカで思うこと」

「なぜ日本の子どもたちはたくさん自殺するの？」

これはジャマイカに来て一番衝撃的だった小学生からの質問です。

金槌で頭を殴られたような思いがしました。

ボブ・マーリー、レゲエ、カリブ海、常夏のビーチ、ボルトを筆頭に陸上スター集団など、日本人がジャマイカに持つ陽気でハッピーでたくましいイメージ・憧れとは裏腹に、世界第3位の殺人発生率を誇る凶悪犯罪と日々隣り合わせの国。かつて「カリブの海賊」の本拠地として栄え、その後激しい植

民地支配に耐え抜き、国民国家として独立し約60年が経過するこの島国には、教育・貧困格差、輸入依存経済の不安定さ、災害時のインフラの脆弱性など、様々な社会課題と折り合いをつけながらも、脈々と受け継いでいる独自の世界観と、ゆっくりとした美しい時間が魅惑的に存在しています。



ジャマイカの子どもたちの笑顔とエネルギーはステキ。



カリブの海賊の本拠地だった場所は今は観光地に。

日本語表記のカーナビを搭載した日本車(7割程度は日本の中古車)に乗り、サムスン(韓国企業)のスマホ(米グーグルのAndroid搭載)を使いながら道を示し、日本人の僕を中国資本の中華系ジャマイカ料理店に連れて行ってくれるジャマイカ人、The Global!!

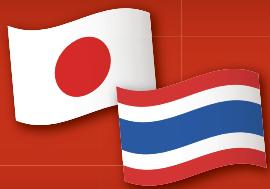
科学技術の進歩によって、これだけ個人に世界が開かれ、様々なモノ・コトが国境を飛び越える今、ここジャマイカもちろん例外ではなく、たくさんのモノ・コトが入り乱れて日々新たな状況が生まれ続けています。グローバル社会の変化・成長・進歩は僕らが思うより圧倒的に速い!!

国内で進展がない体育科教育の発展に貢献するべく、ジャマイカに赴任して半年。確かに日本人的価値観で見たら深刻な社会課題を多く抱え、教育現場においては体罰? 授業崩壊? 殴り合いの喧嘩だらけ? に見える毎日。しかし、「自殺する子どもがいる国が存在するなど信じられない」と言わんばかりの元気と笑顔で、ジャマイカの子どもたちは希望に満ち溢れた日々を生きています。日本は先進国? あれ、これでいいんだっけ?

政府のODAに基づくJICAボランティアの責務を全うしながら、激変する未来の社会を担う子どもたちを育てるために必要な「未来の教育の姿」を思考する、幸せな毎日が続いています。



用具が圧倒的に少ないなど、日本の学校とは全く異なる状況の中で、どうやって全員の運動時間と成長を確保していくか? 試行錯誤の日々です。



日本とタイの伝統舞踊交流



左からピックさん、ヌーイさん、ベンツさん

タイ国のチェンマイから八戸聖ウルスラ学院高等学校に交換留学生として来ている、チャイモンコン タンチャノック(ニックネーム:ピック)さん、ジーナマイ パピチャヤー(同:ヌーイ)さん、ジナーモイ タニダー(同:ベンツ)さんは、現地の学校でタイ伝統舞踊の授業を受けており、本格的なタイ舞踊の踊り手です。一方八戸市でも、多くの日本舞踊家の皆さんが日本の伝統舞踊及び伝統楽器の伝承活動を行っています。今回は、“伝統舞踊”という側面から、両国の交流を取り上げます。

この日タイの3人は、日本舞踊の若柳流師範で八戸国際交流協会会員でもある若柳貴久永さんの教室を訪問しました。日舞を体験し、両国の伝統舞踊で交流するためです。

タイにおける伝統舞踊は、義務教育から高等教育課程にいたるまで“学校”という教育機関の中で発展的に指導を受けることができます。また内容も充実しており、専門的に学べば在学中に職を得ることができるほどです。タイでは職業としての舞踊が社会的に認知されているのです。

一方、日本舞踊は、個人指導者が主催する舞踊教室が主な教育場所で、伝承のためには、ほとんどが個人の努力に頼っているのが実状だと、若柳さんは話していました。なお、タイの伝統舞踊には流派というものが無く、タイ国立芸術専門学校に伝わる舞踊が真正とされ、踊り方も厳格に継承されています。日本舞踊には多くの流派があり、各流派それぞれの踊り方を持っています。

はじめに、若柳さんとお茶を飲み、お菓子を食べながら話している中で、日本髪のカツラを見た3人からは、「本物の髪の毛ですか?」、「日本舞踊ではなぜ顔を白く塗るのですか?」などの質問がありました。その素直な質問に、若柳さんは「人工の髪の毛ですよ」「役柄によってメイクを変えやすくするために白く塗っています」と答えてくれました。

稽古場の風景については、チェンマイの学校での練習と、日本舞踊の練習とでは大きな違いはないようです。



チェンマイの学校でのタイ伝統舞踊の授業風景



若柳貴久永さん

いよいよ舞踊交流です。タイ舞踊と日本舞踊の表現方法の違いを比べてみました。

左の写真は“恥ずかしい”を、右の写真は“うれしい”をそれぞれ表現してもらいました。日本舞踊は着物で踊るので、袖を使った表現がありますが、タイ舞踊では手の動きで表現することが多いようです。



「恥ずかしい！」の表現



「うれしい！」の表現

若柳さんの前で3人はタイの伝統舞踊を披露しました。この踊りの中で、手首を使って花びらが散る様子を表現する場面がありましたが、日本舞踊でこのような場面は、扇子を使って表現するそうです。

この機会に若柳さんから日本舞踊の“さくらさくら”を覚えてもらうことになりました。“♪さくら、さくら、やよいの花は、見わたす限り、かすみか雲か……♪”の歌と若柳さんの動きに合わせて、初めての日本舞踊に挑戦です。

若柳さんは、「体、手の動かし方はさすがです。特に踊りの最中に腰を落したり、立ち上がったときのふらつきがありません。彼女たちの体幹がしっかりしているのでしょう。それと日本式の所作も綺麗です。」との評価でした。どこの伝統舞踊でも、踊っている最中の体のブレがないように体幹を鍛えることは同じようです。

日本人は自国の伝統文化に触れる機会が少なくなっているとの危機感から、若柳さんのように、折あるごとに日本の伝統芸能を知ってもらう活動をしている方々がいます。一方で、今回の3人のように海外から自国の伝統芸能を得意とする人たちが八戸にやって来ることもあります。今回の舞踊に限らず、さまざまな“伝統芸能”をテーマに国際交流を行っていくというのも、重要かつ面白い試みかもしれませんね。



最後は両手をついて“ありがとうございました！”



参考文献：岩澤孝子「タイにおける伝統舞踊教育」
「舞踊学」第35号2012年

世界で活躍する 八戸ゆかりの人



Jackson Two 英会話教室

Jackson 齊藤 博子さん

ここでは、世界で活躍している八戸出身者を紹介しています。

今回は、第62号の佐々木健逸さん(八戸高専卒、現在は日本の航空会社で副操縦士をされています)からのご紹介で、白山台でJackson Two 英会話教室を開いているJackson齊藤博子さんのお話です。

■“海外”と関わるようになったきっかけ✈

八戸に生まれ、何となく学校に行って“ぼんやり”育った私は、学校の修学旅行で見学に行った国際空港の雰囲気魅了された。英語は小学校の時から習わされていたが、決して真面目に取り組んではいなかった。でもそれ以来、少し本気になった。東京の英文科卒業を前にして、“さて、自分は八戸に帰り何をするのか?”と自問自答。そこには帰りたくない自分がいた。経済的に自立出来る仕事を考えた時、思い浮かんだのがあの魅力的な雰囲気の空港を颯爽と歩くCA(客室乗務員)。



3ヶ月の地上座学訓練後の後半は実習に入り、握力が弱かった私も、やっと非常用発煙筒から煙が！CAは体力も必須！

手の届きそうもない“門戸”のドアを叩いたのは若気の至りとは云え、“運”とは不思議なもので、その神様が私に微笑んだのだ。“運の神様”が微笑みだすと、“巡り合わせ”にも変化が起き、会社と仕事仲間、そして周りの人たちに助けられ、育てられた。

誰しもが持ち合わせるこの“運の神”を微笑ませるには、どうしたら良いのかを考えながら、現在に至っている。

倍率は高く、キラキラの優秀そうな女子軍団を相手に、“日本語を綺麗に話します”と苦肉の策であるアピールポイントを思い立ち、日系ではない外資系のありとあらゆる航空会社に履歴書を送ったが、見事にすべて落ちた。意気消沈、帰郷の途に就いた。が、突然不合格だったはずの航空会社から、最終審査で不採用者が1人出たので急きょ“身体検査”を受けるようにと招集がかかり、合格。外資系航空会社のCAとして海外に飛び始めた。



合格した当時、仲間と一緒に記念撮影。(後列、右から4番目が私)
1社につき3ヶ月の訓練、合計3社で9ヶ月も教育していただきました！

■“海外”で得たこと感じたこと✈

アメリカで“水”を注文したところ…

通じなかった！代わりに飲み続けた“Coca-ColaとAmerican Coffee”は、それ以来大好物である。

英語も
すまざま！

テイクアウトのお店で…

メインを注文後、店員に“スターチは?”と聞かれ、アイロンをかける時の“糊”?と聞ききや、すかさず店員が“ポテト?ライス?”そして、フライド・マッシュ・インジャケット、プレーン・ソテー等々、機関銃のように飛び出すチョイス。頭は真っ白。後ろに長々と列ができてしまった。

シアトルのピザのお店で…

店員さんに“ステイニング?”と聞かれたので、“はい、最近来たばかりで近所に3ヶ月ほど滞在予定で~”なんてべらべらと答えていたら、店員さんは困惑顔。“店内で食べるかい?”という意味だということにやっと気が付いた。その後店内で静かに食べたが、味は全く覚えていない。

海外でも日本でも悩める宙ぶらりんな日本人!

変化する日本語についていけな〜い!

外資系のCAになって海外に飛び出し、英国人パイロットとの結婚で海外在住・駐在生活。普段日本語を使わない長年の生活の結果、どうしても母国語が“中途半端”になり、たまに帰国しても、まるで“浦島太郎子”。新しい?日本語についていく事が難しく、自分が“何人”^{なにじん}になってしまうのかと不安に駆られたことが幾度となくあった。本来さびしがり屋であり、独りは辛くきつい。駐在の長かったタイで仲間探しをするため、日本人会のチラシで呼びかけた。チラシを見た人から電話で問い合わせがあり、“は〜い、JICです。”と答えた途端、涙声になった人たちもいた。

“日本人と国際結婚の会”総称JIC (Japanese International Marriage Club) は、思いがけず多くの仲間が集まり、設立することが出来た。国籍がまだ2つある子供たちに“日本語教室”を開き、また“日本の七夕祭り”もどきを一緒に楽しんだのも良い思い出である。

着物は日本との絆の象徴だった?

この原稿への写真提供依頼がきっかけで、アルバムをひも解いていて気が付いた事がある。何枚もの着物の写真である。海外では着付けてくれる人はいな〜い!ので、何時間も汗だくになりながら、着物に袖を通した。異国の地で、自分のルーツとの絆を繋ぎ留めようとする心の表れだったのかもしれない、今思う。



JICの七夕祭りにて。この子たちは、将来どちらの国籍を選ぶのだろう。

[若者たちへメッセージ]

今の自分が出来る事・やらなければならない多くの事を経験して頂きたいです。頑張らなくても良い、何事もやってみる。様々な経験は発想力・柔軟性をもたらしてくれるものと思っています。好きな事、夢中になれる事を見つけられた時、努力する・頑張れる“力”と“勇気”が湧いてくると思います。その勇気は、何かをあきらめる時にも“決断する力”となります。

親元にいる限られた間に、日々の日本の事柄に身を委ねる、それだけで十分である。はたまた日本の“道”“術”をたしなむのもお奨めである。異なる言葉を話しても、身に付けた礼儀と作法は、たとえ日本の作法であっても、その“心”は通じると思われる。“日本”のオーラをかもしだせるような若者が、世界で活躍していくことを期待したい。

最近、日本人として誠に誇らしく思ったことがある。黒の紋付き羽織袴姿で、流暢かつウィットに富んだ英語でスピーチをし、ノーベル賞を受け取った京都大学特別教授の本庶佑さんである。チョーかっこ良く、久しぶりに感激した。

■私の仕事 ✈

3才から大人までの英会話を指導して25年になる。生徒たちの英語の発音やお行儀に少し口うるさいが、小さい生徒達には“エイリアン”だと信じられ、休日には“宇宙のお家に帰る”と言ってもあまり不思議がられない。地元八戸において、世界で通用する英語力と対応力を少しでも身につけ、世界に羽ばたける若者たちを育むことが、私の仕事であり、楽しみでもある。

NEW 紹介します!

八戸市の国際交流員 [CIR]



アンジェリカ・ワン
Angelica Wang

CIRとは?

Coordinator for International Relations

の略で、通訳・翻訳・国際交流イベントなどを通じて国際理解を進めるための仕事をしています。

こんにちは! 2018年8月から八戸市の国際交流員になったアンジェリカ・ワンと申します。これから八戸の皆さんに会えることを楽しみにしています!

Hi! My name is Angelica Wang, and I began working as the Coordinator for International Relations for Hachinohe this past August. I'm super excited to be here, and I can't wait to meet you all!



私はアメリカ出身ですが、このことを知るとびっくりする日本人が多いです。私の両親は中国人ですが、私が生まれる以前にアメリカへ移民しました。だから普段は、「どこの国の出身ですか」と聞かれたら、「中国系アメリカ人です」と答えています。アメリカ生まれ、アメリカ育ちですが、子供の頃から中国語を習っているの、両方の文化に影響を受けています。

When people meet me for the first time, they are usually surprised to learn that I am from America! My parents are Chinese and they moved there before I was born. That's why I tell people that I'm Chinese-American, because although I was born and raised in America, I learned how to speak, read, and write Chinese at a young age. I think the two cultures have both been an equally influential part of my life.

私は高校時代に学校で日本語を勉強し始めました。外国語のクラスが必修科目だったので、日本語が簡単だと思い選択しました (実際は全く簡単ではありませんでした!)。そして、日本語を勉強すればするほど、日本の文化が好きになりました。私の先生も応援してくれて、初めての留学の機会も与えてくれました!

I started learning Japanese in high school. Originally, I was required to learn a foreign language so I just chose a class that I thought would be the easiest. However, once I started learning about Japanese culture, I became more and more interested.

My teacher was also very encouraging, and she introduced me to my first study abroad experience in Japan!



2013年の夏、広島の高校に6週間の短期留学をしました。ホストファミリーと一緒に生活し、毎日制服を着て学校に通いました。シアトルのワシントン大学に入学してからも、日本の言語、歴史、文化について勉強を続け、大阪大学での1年間の長期留学を実現することができました。

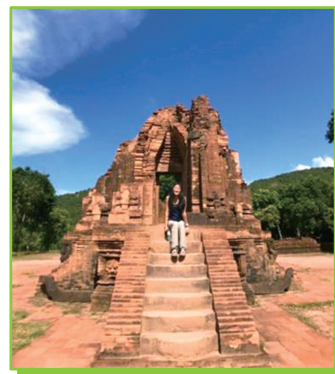
In the summer of 2013, I went to a high school in Hiroshima for a short 6 weeks, where I wore a school uniform and lived with my host family. After entering college, I continued to study Japanese language, history and culture at the University of Washington in Seattle, and eventually studied abroad at Osaka University for one year.

大学を卒業後は、シアトルの経済発展に関するNPOで約一年間働き、その後、八戸に来ました。

After graduating university, I worked at a non-profit economic development organization in Seattle for about a year before coming to work in Hachinohe.

趣味は写真撮影、旅行、食べ物と音楽です。八戸に来てから車なしで過ごしていますが、徒歩やバス、電車でローカルエリアを探検しています。探しさえすればすぐ近くにもたくさん見るものやできることがあると気付いたので、八戸はもちろん、日本の様々な場所で、四季の色々な活動を楽しみたいと思います!

Some of my hobbies include photography, traveling, food and music. Since coming to Hachinohe, I no longer have a car, but I am trying to explore the local area by walking, bus, and train. I have realized that there are plenty of new things to see and do nearby, so I am excited to continue discovering the Hachinohe area and the rest of Japan as well!



紹介します!八戸市の外国語指導助手[ALT]

2018年8月から新しく9名が赴任しています



ラーラ・ウォチェク
Lara Wojcik

〔担当校〕
鯨中・鯨小
南浜中・種差小
大久喜小・金浜小
〔国籍〕
オーストラリア



ジェシカ・コード
Jessica Coad

〔担当校〕
白銀南中・白銀南小
江陽中・江陽小
〔国籍〕
オーストラリア



ネイサニエル・ウォーカー
Nathaniel Walker

〔担当校〕
湊中・湊小・青潮小
〔国籍〕
アメリカ



ピーター・デービス
Peter Davies

〔担当校〕
市川中・轟木小
桔梗野小・多賀台小
多賀小
〔国籍〕
イギリス



ジェームズ・イライアス
James Elias

〔担当校〕
是川中・是川小
島守中・島守小
〔国籍〕
ウェールズ



ベンジャミン・グライムス
Benjamin Grimes

〔担当校〕
第二中・八戸小
城下小
〔国籍〕
イギリス



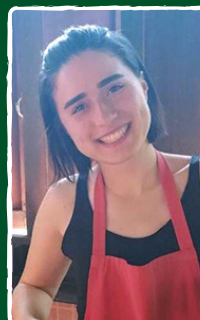
ジブシソ・ニクベ
Zibusiso Ncube

〔担当校〕
白山台中・白山台小
西白山台小
〔国籍〕
カナダ



アンドリュー・キム
Andrew Kim

〔担当校〕
長者中・長者小
図南小・中沢中
南郷小
〔国籍〕
カナダ



アマンダ・スターン
Amanda Stern

〔担当校〕
第三中・柏崎小
明治中・明治小
〔国籍〕
カナダ

ヒッポファミリークラブ

(英語はもちろん、いくつものことばを楽しみながら、話せるようになりたいと思いませんか?)

「八戸会場のご案内」お気軽にどうぞ!!

- 水曜日 15時半~17時 南部会館
- 金曜日 18時半~20時半 南部会館
- 土曜日 18時~20時 ユートリー
- 火曜日 18時半~20時 中居林コミュニティセンター
- その他午前中も随時開催

〈お申し込み・お問い合わせ〉

言語交流研究所ヒッポファミリークラブ

☎ 0120-557-761



子育て支援センター「スマイルガーデン」



カメイ歯科

八戸市六日町23(コンサートホールとなり)
TEL 0178-22-0707

診療時間 平日 10:00~14:00 15:00~19:00
土曜 10:00~14:00

・六日町パーキング券 を差し上げております。
・共通駐車券



HIRAからのお知らせ

外国人に教える日本語講座

外国人への日本語の教え方を楽しく学んでいきます。

日 程：平成31年3月19日(火)、21日(木)、26日(火)、28日(木)
(全4回)

時 間：午後6時30分～午後8時30分

場 所：八戸市福祉公民館(類家)

受講料：1回500円(資料代として)



【お問合せ】

NPO法人 みちのく国際日本語教育センター

ば ば 馬 場 080-6051-3109

npo-mijec@ezweb.ne.jp

あけびやま 明日山 080-6026-3109

michinokunihongo@gmail.com



外国人のための日本語講座



八戸国際交流協会では、NPO法人みちのく国際日本語教育センターに委託して、外国人のための日本語講座を開講しています。会話を楽しみながら、日本語を学びましょう。

日 程：2019年4月～2019年7月の毎週火・水曜日

時 間：午後6時30分～午後8時30分

場 所：八戸市福祉公民館(類家)

対 象：八戸市近郊在住の外国人(レベル別のクラスに分かれます)

受講料：時期により異なるのでお問い合わせください。

【お問合せ】

NPO法人 みちのく国際日本語教育センター

ば ば 馬 場 080-6051-3109

npo-mijec@ezweb.ne.jp

あけびやま 明日山 080-6026-3109

michinokunihongo@gmail.com

八戸国際交流協会 会員及び準会員募集！

八戸国際交流協会の会員及び準会員※を募集しています。当協会は、地域の国際交流や、多文化共生社会の推進を目的として活動しており、会員の皆様の会費によって運営されている団体です。

年 会 費 【個人】1口 2,000円 【団体】1口 10,000円

会員の特典 ■ 協会発行機関紙「りんぐりんぐ」をお届けします。
■ 協会主催国際交流イベント情報をいち早くお届けします。
■ 協会主催のイベントや外国語講座では会員割引等の特典があります。

※準会員は高校生を対象とした無料の会員制度です。詳しくは協会HPをご覧ください。

八戸国際交流協会 ボランティア募集！

当協会は、国際交流活動に参加していただけるボランティアを募集しています。ボランティアとして登録できる方は、**18歳以上**で、次に掲げる条件を満たす方です。

- 条 件 1) 八戸市内に住所を有する方
(市内の事業所及び大学に通勤通学している方を含む。)
- 2) 国際交流に対する理解及び熱意がある方

活動内容 ■ 通訳
■ 翻訳
■ ホームステイ、ホームビジット受入れ
■ 英語ツアーガイドなど のいずれかでOK



編 集 後 記

八戸で働く外国人が確実に増えてきている中、今後の課題の一つとして、外国人が住む地域の人たちとの交流が挙げられます。もし、地域住民との交流の様子を母国の家族も見ることができて、安心・安全を感じてもらえるようになれば、また八戸に来たい(行かせてもいい)と思ってもらえるかもしれません。そのキッカケとなるよう、協会では様々なイベントを開催するほか、フェイスブックなどでの情報発信を行っています。イベント等でせっかく知り合いになった外国人と地域住民が、普段の生活の中でも継続して交流できるように、お互い努力していくことも大切ですね。

編集スタッフ

編集長：川崎 康一

編集員：亀井 圭子 田頭 順子 宗石 美佐



松田 朋恵 阿部 静香 アンジェリカ・ワン

関川 佳子 大山 詩織

発行・お申込・お問合わせ：

八戸国際交流協会(八戸市市民連携推進課内)

〒031-8686 八戸市内丸1-1-1

TEL 0178-43-9257

FAX 0178-47-1485

E-mail info@hachinohe-hira.jp

http://hachinohe-hira.jp



フェイスブックページ

印刷：新光印刷株式会社

〒031-0813 八戸市新井田字鷹清水9-11

TEL 0178-34-5331

FAX 0178-34-6078



Instagramページ